

新篠津村

しんしのつむら

面積: 78.24km²
 人口: 3,600人(平成22年12月末日現在)
 世帯数: 1,523世帯(平成22年12月末日現在)
 村の木: ナナカマド
 村の花: ハナショウブ
 村名の由来: アイヌ語で「本流が同じ深さで、ゆるやかに流れる(シ・ヌッチ)」、
 大きな原野が沼(のような)(シ・ノ・ト)等の意味から
 H P: <http://www.vill.shinsinotsu.hokkaido.jp/>
 E-Mail: kikaku1@vill.shinshinotsu.hokkaido.jp



道の駅「しんしのつ」



新篠津村総務課企画係
係長

石若 孝之さん



道の駅「しんしのつ」外観

石狩平野を見渡す既存の温泉施設 「たっぷの湯」を併用しオープン

視界を遮ることなく、のどかな田園風景が石狩平野に広がる新篠津村に、北海道で110番目の道の駅「しんしのつ」が、平成22年11月3日にオープンしました。平成9年に開業し、これまでも沢山の利用がある天然



特産品コーナー

温泉「たっぷの湯」を併用した施設となっています。まずその「たっぷの湯」は、泉質がナトリウム塩化物泉で、神経痛、慢性消化器病、冷え性などに効果があるといわれています。新篠津村役場総務課企画係の石若孝之係長は「わたしも何度も利用していますが、本当にいいお湯です(笑)。浴室の湯船や露天風呂からは、しのつ湖や石狩平野が見渡せ、のんびりリラックスできることは間違いありません」と、PRにも力が入ります。誰にも優しいバリアフリー設計を取り入れ、日帰り入浴や宿泊のほか、バスによる送迎付きの宴会も受け付けており、リピーターも増えているそうです。

道の駅といえばグルメは欠かせませんが、レストラン「もみの木」では、オープンに合わせて「まるごとトマトスープカレー」など新メニューを追加。農業主体の村だけに、地場野菜をたっぷり使い、中には生産者の名前を付けたメニューもあります。

特産品コーナーには地元の新鮮な野菜が並び、



3種類の揚げいも

ニンジンジュースや白菜農家の方が韓国まで勉強しに行き、開発したキムチ「炎の華」、野菜プリン、豆腐、味噌など、地元で生産された野菜を利用した商品が数多く揃います。インカのみぎめなど、揚げた3種類のジャガイモを一串に刺した「3種類の揚げいも」は、訪れたら是非食べてみたい一品です。また、道の駅オープンと同時に販売を開始した「どぶろく」も大人気商品となっております。

わかさぎ釣りやキャンプなど、ファミリーの人気スポット

道の駅「しんしのつ」は、村の観光の要でもある「しんのつ公園」に隣接し、園内では各種アクティビティが体験できます。特に冬期間のしのつ湖でのわかさぎ釣りが有名で、竿やエサが有料で用意されているので、手ぶらで楽しむことができます。しかも釣った魚はレストラン「もみの木」や、村のもう一つの温泉施設である、湖畔の日帰り温泉「アイリス」のレストランで天ぷらや唐揚げに調理してもらえます。また釣りと入浴の両方が利用できるお得なセットが「たっぷの湯」にあり、氷上で冷えた体をすぐに暖めることもできます。ユニークな乗り物として水陸両用車「Argo(アールゴ)」を導入しており、陸上やしのつ湖の湖上をスイスイ進行。結氷すると雪上クルージングが体験できるようになっています。石若係長は「寒いシーズンは北海道ならではの遊びができ、暖かい時期はしのつ公園キャンプ場が大変人気です。季節を問わずファミリーに楽しんでいただけることはもちろん、年配者には18ホールのパークゴルフ場がおすすめ」とも。村の花であるハナショウブが7月上旬頃、園内で美しく咲き誇り、ガーデニング愛好家

おすすめの公園にもなっているそうです。展望塔もあり、眼下に紫色のハナショウブと共に石狩川を臨むこともできます。

クリーン農業を実践し 食の安全に取り組む

新篠津村の農業は、クリーンな農業というイメージが浸透しており、安心な作物づくりに取り組む団体があり、日々切磋琢磨を続けています。「農事組合法人オーガニック新篠津」は2年以上農薬や化学肥料を使用していない畑で作物を育て、農水省が定めるJAS有機農法にこだわっています。EM菌により土壌を良い状態にし、病気になりづらい作物、つまり薬や肥料に過大に頼らずに育てるEM農法を実践する「EM農法研究会」。そして顔の見える農業を目指し、有機専門店とも交流を持つ「グリーンピュアクラブ」などがあります。

最後に石若係長は「当村の農家は本当に研究熱心で、安全で、しかも品質のいい農産物を市場に送り出しています。販路の拡大にもたいへん積極的で、加工し付加価値をつけて販売するなど、チャレンジ精神旺盛です。農家の奥さんたちも元気いっぱい、店頭立つなど活動範囲は広いんですよ。今の消費者の方は目も舌も肥えていますから、そうした高いニーズに応えられるよう、非常に前向きな営農をされています」と、村の農業の話題になると、表情もよりいきいきとなり、誇りに思っている様子がうかがえました。

札幌から車で約50分。楽しさ、くつろぎ、おいしさを発信する道の駅の誕生に、「これからもっと、もっと多くの方たちに利用してもらえるのでは」と、村の期待も高まっているそうです。



地元名産のお米